

大人のアクティブ・シティズンシップ教育を考える =DEAR の ALE プロジェクトを事例として-



開催日時：2023年11月5日（日） 運営媒体：Zoom

参加者数：15名

今回のJ-CEF スタディ・スタヂオでは、「大人のアクティブ・シティズンシップ」がテーマです。これまでJ-CEFでシティズンシップ教育について議論するときは学校でどのように教えるか、子どもにどのように教えるか、といったことがテーマになることが多くありました。しかし未来に託すばかりではなく、今社会をつくっている大人をどうやってつくっていくのか、大人がどうすれば主権者になれるのか、ということについて議論することも必要なのではないかと問題意識が生まれていき、DEARで副代表として活動されている近藤牧子さんに話題提供をお願いしました。

DEARは2022年4月に18歳成人を契機とし『18歳成人とキャリア教育-グローバル社会で「おとなになる」を考える』を発行されました。問題意識としてあったのは「私たちは子どもをおとなにする教育をしているのか？」ということと「キャリア教育を狭くとらえていないか？」ということ。子ども・若者たちの声に耳を傾ける機会となって欲しいという思いから、「おとなになる」「はたらく」「社会参加」について考える内容となっています。また、DEARが取り組んでいるALE（成人教育）プロジェクトについて。ALEの目的は個人の変容と社会の変革であり、学習領域として重要なのは、識字と基礎教育、継続教育・専門開発、アクティブ・シティズンシップの3つが一体的に認識されることです。特に「識字」は基礎的な読み書き能力の獲得だけではなく、自分が生きている社会をどのように捉えどのように意見を表現できるか、ということに続く、生涯学習と成人発達の重要な要素だそうです。また、アクティブ・シティズンシップというのはいわゆる「SDGs的に」地域や社会に貢献するだけの市民になるだけではなく、今の社会を変革・変容していくような、批判的視点を持つ市民性が求められるというお話もありました。

後半のディスカッションでは「子どもへの教育はみんな積極的なのに、大人への教育の必要性が共有されないのはなぜか」という議論が盛り上がりました。大人への教育は何か都合が悪いのか？大人への教育は洗脳のように見えるのか？大人への教育＝職業スキルの教育だけなのか？1年に1度民主主義について考えるデモクラシーデーというのをつくるのはどうか？国全体ではなく地域ベースで進めていく必要があるのでは？といった意見がありました。

最後、司会の斉藤さんから「大人は妥協しながら生きている、というのが問題の根っこにあるのではないか」という話がありました。その意見に対して近藤さんからこの立場（職業や肩書き）だから意見はいえない、などという前に人はみんな人間で市民である、役割を離れて自分の意見を素直に言える場があるといいのではないかと返答していただきました。

忙しく、様々なしがらみの中で生きている大人に必要なのは、日々のもやもやを共有し、もやもや解決のために行動できる「余裕」なのかもしれません。

（運営：斉藤、浜田、古野、別木）